県内9か所の農業改良普及センターからの新鮮な現地情報をお届けいたします。

普及活動標語
思いを形に,あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 農業普及現場 ５月号

NEWS LETTER No.171 2021.5

紹介内容(4/1～4/30)

１．みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
○ 石　巻農改：水稲乾田直播栽培講習会が開催されました
○ 仙　台農改：普及センターホームページに農家向けのお役立ち情報を掲載しました
○ 栗　原農改：「栗原農業士会」通常総会及び研修会が開催されました
○ 大　崎農改：岩出山で「第１回法人化研修会」を開催しました
○ 大河原農改：水稲育苗講習会で温度や水の管理を周知しました
○ 仙　台農改：株式会社イグナルファーム大郷で栽培検討会を開催しました

② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
○ 亘　理農改：山元町の株式会社ＧＲＡで入学式が開催されました
○ 亘　理農改：みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました
○ 仙　台農改：農業大学校の学生が普及センターを訪問しました

③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・・３
○ 亘　理農改：水稲乾田直播栽培の播種は概ね終了
○ 石　巻農改：河北ミニトマト部会の現地検討会を行いました

④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
○ 亘　理農改：亘理名取果樹振興協議会　運営委員会を開催しました
○ 大　崎農改：ＪＡ古川で令和３年産えだまめの栽培講習会が開催されました
○ 石　巻農改：アスパラガス栽培管理勉強会（定植編）の開催
○ 登　米農改：登米地域果樹産地協議会総会が開催されました
○ 亘　理農改：「名取のカーネーション」の産地表示販売がスタートします
○ 亘　理農改：亘理イチゴネットワークの生育調査を行いました
○ 亘　理農改：「にこにこベリー」の定期巡回を試験研究機関等と行いました
○ 亘　理農改：岩沼市で加工用ばれいしょの栽培が始まりました
○ 亘　理農改：亘理地域にてりんごの花が開花しました
○ 気仙沼農改：枝もの用クロマツ生産法人の経営発展に向けて
○ 気仙沼農改：赤色ＬＥＤを用いたきく類の露地電照栽培実証試験を実施しています
○ 美　里農改：日本なしの凍霜害対策を情報提供しました

２．時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
○ 石　巻農改：「だて正夢」の栽培講習会を開催しました
○ 石　巻農改：水稲優良品種決定試験用の播種
○ 美　里農改：酒造好適米新品種「吟のいろは」の育苗巡回を行いました

このニュースレターは，ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

３．多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

○　石　巻農改：牡鹿半島の「ニホンジカ」対策は住民理解・情報共有から始まります！

② 大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

○　石　巻農改：オリーブ巡回指導会

１．人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○水稲乾田直播栽培講習会が開催されました

石巻農業改良普及センター
令和3年4月13日

石巻農業改良普及センター管内では，水稲の直播栽培が 819ha（令和２年産）で取り組まれています。そのうち乾田直播栽培は 764ha です。

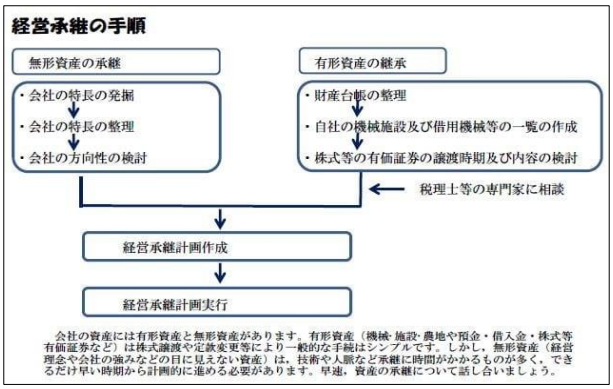
直播栽培は，育苗作業や田植えを必要としない省力技術として年々面積が拡大しています。特に管内では，直播栽培の中でも乾田直播栽培の比率（93%）が高いことが特徴で，大豆や麦類で使用する大型農業機械が水稲にも汎用利用できるメリットがあります。

４月８日にＪＡいしのまき主催による栽培講習会が開催され，管内で乾田直播栽培に取り組む生産者 11 人が参加しました。講習会では，当普及センターから「令和２年産乾田直播栽培水稲の生育状況と作柄」について説明を行いました。また，東北農研センターからリモート中継により，「乾田直播栽培の導入のメリット，播種床づくりと漏水対策，収穫までの作業体系，肥培管理のポイント，乾田期の雑草の種類と発生量に応じた除草剤の体系，発生すると問題となる雑草の種類」について説明が行われました。

管内の乾田直播栽培の播種作業が早いところでは，３月下旬から始まっています。参加した生産者は，熱心に聞き入っていました。普及センターでは，今後とも乾田直播を含めて地域に適した栽培方法の定着・確立に向けた支援を行っていきます。

○普及センターホームページに農家向けのお役立ち情報を掲載しました

令和3年4月20日
仙台農業改良普及センター



仙台農業改良普及センターでは，プロジェクト課題活動で得られた成果を「お役立ち情報（農家の方向け）」としてホームページに掲載しました。プロジェクト課題とは，地域農業の担い手育成や地域課題の解決に向けて，重点的に取り組むものです。令和２年度に完了した課題においても多くの成果が得られ，その中から「経営承継の手順書」や「ＧＡＰの従業員研修資料」，「６次産業化における経営管理シート」，「べんがらモリブデン直播栽培チェックリスト」等を掲載したので，経営の課題解決の参考として，ぜひ御活用ください。

○「栗原農業士会」通常総会及び研修会が開催されました

令和3年4月20日
栗原農業改良普及センター

４月 16 日に，宮城県栗原合同庁舎で栗原農業士会（会員数 20 人）の令和３年度通常総会及び研修会が開催されました。

総会では，令和２年度事業報告並びに収支決算，令和３年度事業計画並びに収支予算案等が協議され，議案はすべて承認されました。農業士会の活動については，新型コロナウイルス感染拡大の影響を見ながら，本年度も経営状況相互視察研修会等の事業を実施して行くことを確認しました。

研修会では，栗原農業改良普及センターから第３期「みやぎ食と農の県民条例計画」や栗原圏域の園芸特産振興戦略プラン」，「令和３年度普及指導計画」の概要について説明し，県の農業政策や普及事業に関する理解を深めました。

○岩出山で「第1回法人化研修会」を開催しました

令和3年4月22日
大崎農業改良普及センター

４月 14 日に，大崎市岩出山下真山地区において「第１回法人化研修会」を開催しました。

地域の農業者が減少する中，持続的に営農を担う経営体づくりが求められています。大崎普及センターでは，大崎市岩出山下真山地区における農地整備事業を契機とした地域農業の発展を支援するため，担い手の育成などを支援しています。今年度は法人設立に向けた基礎的な内容や，税理士及び中小企業診断士などを招いた専門的な研修会を開催予定です。

今回の研修会では，当普及センター職員が「農業経営の法人化」と題して，実際に法人化した事例紹介や形態の違い，農地所有適格法人の要件について説明を行いました。参加者からは「中山間地で法人化し成功した事例を知りたい」,「農大生の就職先として，法人雇用はどの程度選ばれているのか」といった質疑があり，関心の高さがうかがえました。

普及センターでは，今後とも地域農業を支える担い手の育成支援を継続して行ってまいります。

○水稲育苗講習会で温度や水の管理を周知しました

令和3年4月22日
大河原農業改良普及センター

４月 16 日と 20 日の２日間，ＪＡみやぎ仙南が主催する水稲育苗講習会が白石市，七ヶ宿町，柴田町及び大河原町で開催されました。

普及センターからは，今年は特に昼夜の寒暖差が大きくなっていることから，育苗施設の温度管理に十分注意することと，田植後の管理の留意点，農作業安全について説明しました。

参加者からは，プール育苗におけるはじめの入水タイミングや，高温強風時の管理方法など，活発な質問が寄せられました。

普及センターでは，令和３年産の良質米生産に向けて引き続き支援していきます。

○株式会社イグナルファーム大郷で栽培検討会を開催しました

令和3年4月27日
仙台農業改良普及センター

４月 20 日，(株)イグナルファーム大郷で栽培研修会を開催しました。研修会には，社員のほか，農業・園芸総合研究所や当普及センターが出席し，昨年度取り組んだ「労働力不足の解消に向けたスマート農業実証」の成果の共有とその活用，今作の高温期の栽培管理の２テーマを設定し，検討・意見交換を実施しました。

実証事業に携わった社員からは，全体として約30％の労働力削減効果が見られたとの報告があり，得られた実証データを今後に活かすための意見交換を行いました。また，昨年度のハウス環境や栽培管理の振り返りを行った後，高温期の栽培管理方法に関連して，農業・園芸総合研究所の試験状況や他法人の事例などについて，情報提供を行いました。

②新たな担い手の確保・育成

○山元町の株式会社GRAで入学式が開催されました

令和3年4月9日
亘理農業改良普及センター

山元町でいちごを生産する法人，(株)GRA の 2021 年度研修生の入学式が４月６日に同社のハウスで行われました。

2016 年に始まった同社の研修事業は，今年で６期目を数え，これまでに 20 名弱が研修を修了しており，うち６名（５経営体）が山元町で MIGAKI ファーマーとして営農を開始しています。今年度の研修生は出身も経歴も異なる３名で，これから２年間の研修を行った後に，山元町での独立自営就農を目指します。

入学式では，代表取締役である岩佐大輝氏より激励の挨拶があった後，各研修生より自己紹介と強い決意表明がありました。

普及センターでは，法人と連携しながら，円滑な就農や就農後の技術向上・経営安定に向け，今後も支援してまいります。

○みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました
令和3年4月30日
亘理理農業改良普及センター

４月 23 日，宮城県農業大学校に入学した当管内出身の学生を対象に，普及センターの役割や管内農業の状況等の理解を目的とした「地域農業紹介講座」を開催しました。

参加した農業大学校生は９名。学生の自己紹介後，普及センターの役割や管内の農業の状況等を説明しました。はじめは緊張していた学生たちも次第に打ち解け，疑問に思っていることなど，多くの質問が出され，有意義な意見交換となりました。

学生の多くは，卒業後の進路として，農業法人への就職を希望しており，今後の成長が楽しみです。普及センターでは，引き続き，地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○農業大学校の学生が普及センターを訪問しました
令和3年4月30日
仙台農業改良普及センター

この春農業大学校に入学した管内出身の学生 10 名と県外出身の学生５名が，４月 23 日に仙台普及センターに来所し，情報交換を行いました。

普及センターからは，大消費地「仙台」を有する管内の農業の状況や課題を説明し，その解決などに向けた普及センターの取組などをお話ししました。学生からは卒業後の進路希望を１人１人から伺い，その後，情報交換を行いました。

これまで農業との関わりがなかったり，農家出身であっても普及センターのことを知らなかったという学生たちは，はじめは緊張していましたが，次第に打ち解け，疑問に思っていることなどを次々と質問し，有意義な情報交換を行うことができました。将来を担う若者たちから農業に対する熱い想いを聞けたことで，今後の成長が楽しみです。普及センターでは今後も，新規就農者含め，地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

③先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援

○水稲乾田直播栽培の播種は概ね終了
令和3年4月20日
亘理農業改良普及センター

亘理普及センター管内では，東日本大震災後，担い手への農地集積が進んでいます。そこで，大規模経営に応じた省力化技術として，育苗や代掻きをしない水稲乾田直播栽培が注目されており，取り組む経営体や取組面積が徐々に増加しています。管内における令和３年度の取組面積は 167ha（名取市 55ha，岩沼市 57ha，亘理町 30ha，山元町 25ha）と推定しており，昨年度より 29ha 増加しています。

乾田直播栽培では，育苗や代掻きに要する労力を削減するとともに，移植栽培との作期分散が可能となります。管内では，移植栽培の播種が始まる前の３月下旬から通水・代掻き開始前の４月中旬にかけて播種する生産者が多く，今年度の播種の最盛期は４月 10 日頃だったと思われます。

乾田直播栽培では「雑草防除」や「肥培管理」において，移植栽培とは異なる管理が必要となります。普及センターでは，令和元年度から水稲直播勉強会を立ち上げ，情報交換をするとともに，技術的な課題について検討してきました。今年度も，乾田直播栽培技術の高位平準化に向けて重点的に支援していきます。

○河北ミニトマト部会の現地検討会を行いました
令和3年4月23日
石巻農業改良普及センター

河北ミニトマト部会では，今作は11名の生産者が栽培に取り組んでいます。昨年の５月にキュウリモザイクウィルスに罹病したほ場が見られたため，石巻普及センターからはその対策としてアブラムシの防除，育苗から本ぽへの持ち込み回避を呼びかけました。さらに，ミニトマトに登録のある農薬を一部抜粋し一覧表にしたものを配布・説明し，併せて農作業安全確認運動の一環として啓発ステッカーを配布しました。

今回の検討会では，まだ育苗段階の生産者も見られましたが，半数以上が４月上旬から中旬にかけて定植済みで，出雷が見られるほ場もありました。定植時は多くがアブラムシ防除のため植穴処理土壌混和剤を処理したとのことでしたが，３週間ほどで効果が落ちてしまうため，その後は散布剤で防除するよう指導しました。今後も月１回の現地検討会において，病害虫防除を中心に指導を行う予定です。

④園芸産地の育成・強化支援

○亘理名取果樹振興協議会　運営委員会を開催しました

令和3年4月8日
亘理農業改良普及センター

亘理管内は県内有数のりんご生産地です。今年はりんごの生育状況が非常に早く，既に蕾が見え始めている園地もあり，作業が本格的に始まっています。

亘理名取果樹振興協議会（事務局：亘理普及センター）では，各地区のりんご栽培組織の代表者が役員となり，りんご栽培技術の向上と会員相互の交流を深めるために，各種行事運営を行っています。

４月５日に，今年度第１回目の運営委員会を開催し，年間行事を決定しました。当協議会では，定例となっている栽培研修会や防除担当者会議の他，２年前から若手後継者向けの勉強会に取り組み始め，次世代の担い手育成支援にも力を入れています。

普及センターでは，今後も当協議会行事や巡回指導・情報紙の発行を通じて，当地域のりんご栽培技術の向上に向けて支援します。

○JA古川で令和3年産えだまめの栽培講習会が開催されました

令和3年4月12日
大崎農業改良普及センター

４月６日にＪＡ古川転作枝豆栽培講習会が開催され，高品質・安定生産に向けた栽培管理技術や病害虫防除，除草剤の効果的な使用方法などを確認しました。開催にあたっては換気やマスクの着用，体温測定など感染防止対策を徹底し実施されました。

普及センターからはえだまめで発生する病害虫について，当地域で発生の多い害虫や今後注意が必要な病害の症状や発生条件及び防除方法を説明しました。病害虫防除を徹底することで，高品質なえだまめ生産が期待されます。

ＪＡ古川では，えだまめ生産が始まって６年目を迎えます。普及センターでは，古川地域がえだまめ産地として発展できるよう，引き続き支援を行っていきます。

○アスパラガス栽培管理勉強会（定植編）の開催

令和3年4月21日
石巻農業改良普及センター

４月７日に(株)パスカファーム立沼（東松島市）で生産者等 45 人が参加し，パイオニアエコサイエンス(株)の松永邦則氏を講師に迎え，アスパラガス栽培管理勉強会（定植編）を開催しました。

今回はパスカファーム立沼が事前に準備（施肥・黒マルチ掛け）した畑で，松永氏から定植時のポイントについて説明を受けた後，参加者が専用定植器を使って植え穴を開け，苗を定植する実習を行いました。

松永氏は「降雨後のマルチ掛け，地温 15℃前後の確保，苗への十分な給水，専用定植器での深植え，早植えによる大株の養成，活着促進のための点滴潅水，追肥などが翌年の収穫量のカギとなる」と話され，参加者と活発に意見交換されました。

アスパラガスは定植後 10 年位収穫できますが，病害虫対策が課題となっています。そこで明治大学とパイオニアエコサイエンスが毎年株を更新し，病害虫管理のリスクを軽減する「採りっきり栽培」を開発しました。石巻管内では地域農業の活性化のため，高収益作物としてアスパラガスに注目し，「採りっきり栽培®」などの導入・定着に取り組んでいます。

○登米地域果樹産地協議会総会が開催されました

令和3年4月22日
登米農業改良普及センター

４月 16 日，登米地域果樹産地協議会総会が開催されました。

この協議会は，登米地域における果樹産地の将来を考えるために，登米市内のりんごやもも，ぶどう等の若手生産者が中心となって昨年７月に発足した組織です。発足以降，自分たちが目指す果樹産地の姿とそれを実現するための戦略である「登米地域産地構造改革計画」の策定を進めてきました。

この日の総会では，令和３年度の事業計画や予算案とともに，産地構造改革計画が承認されました。今後，協議会では，この計画の実現に向けて，生産技術改善・販売戦略・人材や園地育成等について公的支援事業も活用しながら取り組んでいく予定です。普及センターでは支援の一環として，県農業・園芸総合研究所が作成した「りんごジョイントＶ字樹省力栽培マニュアル」を生産者に配布しました。

普及センターでは，引き続き，園芸振興や農業人材育成などの取り組みを支援してまいります。

○「名取のカーネーション」の産地表示販売がスタートします

令和3年4月22日
亘理農業改良普及センター

新型コロナウイルスの影響により，花き産業は大きな影響を受けていますが，「地元の花の産地を応援したい」という消費者の声も聞かれます。一方，花きの分野において産地名を表示した販売は十分に行われていないため，消費者が購入時に産地を認識しづらい状況にあります。

そうした中，名取市花卉生産組合では，市場関係者，量販店，地元生花店に協力を呼び掛けて調整を重ね，「名取のカーネーション」の産地表示販売に取り組むことになりました。

実施期間は，カーネーションの需要が高まる「母の日」前の４月 23 日から５月９日までの 17 日間です。名取市と岩沼市内の生花店５店舗と県内量販店で，シールやポップ等を活用することで産地名（名取のカーネーション）を表示し，消費者に情報発信します。花きの分野においても，産地が消費者の商品選択の指標となれば，ブランド化の手段にも成り得ると考えられ，今後，普及，定着が期待される取組でもあります。

普及センターでは，生産者と実需者の生販連携による取組を今後も継続して支援してまいります。

○亘理イチゴネットワークの生育調査を行いました

令和3年4月23日
亘理農業改良普及センター

亘理町，山元町のいちご生産者 11 名のハウスに温度や湿度，日射量，CO2 濃度等を計測する環境測定機器が設置されており，各生産者の環境データの比較やデータの蓄積により環境制御技術の向上，収量の増加を目指し取組が行われています。

令和３年産作からは，普及センターとＪＡみやぎ亘理，ＪＡ全農みやぎが連携し，１か月に１回生育調査を行い，環境データと生育データを集めて，いちごの生育に合わせた最適な環境管理の検討を行っています。４月 15 日の生育調査では，温度上昇や日長が長くなった影響で，草勢が強い傾向にあることがわかりました。一方で，春先からハウス内温度を低く管理することにより，適度な草勢を抑えることができている生産者もあり，環境制御技術の向上がうかがえました。

普及センターでは，今後も関係機関と連携し，環境制御技術の向上に向けて支援してまいります。

○「にこにこベリー」の定期巡回を試験研究機関等と行いました。

令和3年4月23日
亘理農業改良普及センター

「にこにこベリー」は，管内では平成30年から試作が始まり，今年で５作目になります。令和３年産の作付面積は，管内で約６ha となっています。普及センターでは，４月20日に県農業・園芸総合研究所及び園芸推進課と連携し，「にこにこベリー」の定期巡回を実施しました。

「にこにこベリー」は，クリスマスの需要期に収穫量を確保できる特徴がありますが，定植時期が早すぎると中休みが発生することや，春の収量が多いことにより労働力が不足することが課題として挙げられます。これら課題を解決するため，関係機関との定期巡回に加え，モデル資料作成，配布による適期の作付けや，適切な育苗管理，労働力の目安について周知しています。

これらの取組により，現在の生育は順調で，今作は中休みがほとんどなく，連続して収穫できています。また，普及展示ほ場では，１週間に１度いちごの草丈を計測しており，草勢に合わせた管理を実施しています。春先は温度上昇や日長が長くなることから草勢が強くなりやすい傾向にありますが，ハウス内温度を低く管理することで，現在も草勢を抑えることができています。普及センターでは，今後も「にこにこベリー」の安定栽培に向けて支援していきます。

○岩沼市で加工用ばれいしょの栽培が始まりました

令和3年4月26日
亘理農業改良普及センター

岩沼市の土地利用型法人・農事組合法人長岡グリーンサポートでは，大区画に整備された水田で，新たに加工用ばれいしょの栽培を開始しました。

ばれいしょは，３月下旬に種いもの植え付けが行われており，８月頃の収穫が予定され，大手菓子メーカーに出荷されます。

本県では，大区画ほ場を活用した露地園芸を推進しており，普及センターでは，農業・園芸総合研究所等の関係機関と連携しながら，加工用ばれいしょの安定生産技術の確立に向けた支援を行って参ります。

○亘理地域にてりんごの花が開花しました

令和3年4月27日
亘理農業改良普及センター

亘理管内は県内有数のりんご生産地です。今年はりんごの生育が前進しており，当普及センターのりんごの生育調査ほ（品種：ふじ）では，平年より10日早い４月19日が開花始めでした。この時期，亘理管内には養蜂業者からミツバチを借りている生産者も多く，たくさんのミツバチがりんご園で元気に飛び回っている様子が見られます。

４月20日には共同防除担当者会議を開催し，各地区担当者間で病害虫の発生動向やりんごの生育状況等の情報交換を行いました。今年はりんごの生育や害虫の発生が早いため，例年より早く防除作業に取り組んでいるとのことです。

普及センターでは，定期的な巡回指導や各地域で開催される現地研修会等で技術指導を行い，当地域の高品質なりんごの安定生産を支援していきます。

○枝もの用クロマツ生産法人の経営発展に向けて

令和3年4月28日
気仙沼農業改良普及センター

南三陸町の(株)南三陸 Pine Pro では，平成30年から正月飾りやアレンジメント，花束に使用する枝もの用クロマツの栽培に取り組んでいます。今年で栽培４年目となり，若松の初出荷を迎えます。

４月15日に，法人役員や市場担当者をはじめ，町農林水産課，県園芸推進課，普及センターの担当者らを参集し，第１回経営戦略会議を開催しました。会議では，若松の本格出荷に向けた機械施設の整備や，規模拡大に係る農地の確保等について打合せが行われました。市場担当者からは，「枝もの用クロマツは需要に対して供給が足りていない状況で，生産拡大が望まれている」と法人に対する期待の声が聞かれ，ニーズを再確認するとともに，生産拡大に向けて意欲の高まりが見られました。

普及センターでは，今年度からプロジェクト課題に位置付け，法人の生産安定と経営発展に向けて，関係機関と連携を図りながら支援を展開していきます。

○赤色 LED を用いたきく類の露地電照栽培実証試験を実施しています

令和3年4月30日
気仙沼農業改良普及センター

近年，８月のお盆や９月のお彼岸の出荷を狙ったきく類の栽培では，温暖化の影響で生育期間に高温に遭遇することにより開花が遅れる事例が散見されており，需要期に計画出荷するための技術の確立が課題となっています。これらの課題に対応するため，県農業・園芸総合研究所（農園研）では，赤色 LED による電照効果と高温開花性が高い品種を選定するとともに，それらを組合せた露地電照栽培技術について検討しています。

今般，普及センターでは農園研と連携して，きく類の栽培が盛んな南三陸町内に２か所の実証ほを設け，技術の確立と普及に向けて試験を実施することとし，４月 27 日に８月盆出荷作型 14 品種の定植作業を行ました。今後，開花日や切り花品質等を調査し，技術の現地適応性を確認していきます。７月頃には管内生産者等を参集し，現地検討会を開催する予定です。

○日本なしの凍霜害対策を情報提供しました
令和3年4月30日
美里農業改良普及センター

（写真：凍霜害により雌ずい等が壊死した「あきづき」の花蕾）

４月９日から 15 日にかけて，強い降霜が数日確認されました。その影響と思われる凍霜害が，美里町北浦地区の日本なしほ場の多くで確認されました。

その時期は，主力品種の「幸水」･「豊水」･「あきづき」が開花直前から開花始めの時期で，収穫量に影響を及ぼす懸念があったため，当事務所では凍霜害の事後対策をまとめた技術資料を４月 16 日にＪＡ新みやぎ北浦梨部会員を中心に配布し，結実確保に向けた作業の徹底を呼びかけました。

凍霜害の影響は幼果期になるまで判明しないため，今後も継続して情報提供を行い，収穫量への影響が最小限となるよう支援していきます。

２．農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○「だて正夢」の栽培講習会を開催しました
令和3年4月21日
石巻農業改良普及センター

４月 16 日，「だて正夢」の栽培講習会がＪＡいしのまき主催で開催されました。「だて正夢」は低アミロースの良食味品種であり，当普及センター管内においては，令和３年は 74ha で作付け予定です。

普及センターからは，品種特性や，収量やアミロースとタンパク質の適正なバランスを確保するための栽培管理のポイントについて，以下の説明を行いました。

①基肥はひとめぼれと同程度施用し，適切な穂数を確保すること。
②栽植密度は 60～70 株／坪とすること。
③適正な白米アミロース含有率とし，玄米タンパク質含有率を基準値以下にするため，５月中旬に田植えを行い，高温登熟と登熟遅延を回避すること。
④堆肥の施用などを行うとともに，追肥については減数分裂期に窒素成分で２kg／10ａ施用を基本とし，生育期間後半の葉色を維持して，登熟歩合を向上させ，玄米千粒重を確保すること。

参加した農業者は，だて正夢の栽培ポイントを改めて確認できる場となりました。普及センターでは，現地栽培技術普及展示ほを設置し，だて正夢の収量確保と品質向上に向けて支援していきます。

○水稲優良品種決定試験用の播種
令和3年4月23日
石巻農業改良普及センター

石巻地域では，水稲の播種が終盤を迎えています。

当普及センターでは，県の優良品種決定調査現地試験用の５品種の播種を行いました。中生から晩生の３品種が試験用品種で，残り２品種が比較の「ひとめぼれ」と「つや姫」になります。田植え後，出穂期や収量性，玄米品質などを評価して，有望度を判定します。

この中から，将来の宮城県の稲作を担う品種が，誕生するかもしれません。

○酒造好適米新品種「吟のいろは」の育苗巡回を行いました
令和3年4月30日
美里農業改良普及センター

「吟のいろは」は，古川農業試験場が育成した酒造好適米品種で，令和２年２月に品種登録出願公表となりました。

松山町酒米研究会は，地元の酒蔵と結びついて，有機 JAS 等による酒米づくりに取り組んでいる組織です。研究会では，平成 29 年度から令和２年度まで，古川農業試験場の現地試験として「吟のいろは」の栽培を行いました。令和２年度は，研究会と協力して４か所の展示ほを設置，栽培データの収集や肥培管理の検討を行いました。

今年度は生産者 10 名（うち組織１）で栽培に取り組む予定ですが，研究会の事務局であるＪＡ新みやぎ松山営農センターの協力のもと，４月 22 日に育苗巡回を行い、苗の状況を確認しました。

播種が遅かったためまだ出芽していない生産者もありましたが，全体的にやや苗立密度が少ない傾向だったものの，早い苗では 2.2～2.3 葉程度と順調に生長していました。普及センターからは，現在の苗の生育状況と合わせて，今後の温度管理や追肥のタイミングなどについて生産者へ説明しました。

生産者は，「吟のいろは」の上位等級を目指すとともに，高品質の原料米生産のため最大限の努力を行う意向を持っています。普及センターでは，高品質米生産のための栽培データ収集・分析や，酒造組合等実需者の意見の共有などを行い，研究会への支援を継続していきます。

３．持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

〇牡鹿半島の「ニホンジカ」対策は住民理解・情報共有から始まります！
令和3年4月23日
石巻農業改良普及センター

石巻地域では，牡鹿半島を中心にニホンジカが多く生息し，農林業の被害や交通事故などが問題となっています。2019 年に，10 年後を目標とした「石巻地区における野生生物（ニホンジカ）と住民との共生のためのロードマップ」を作成して，ニホンジカ対策に取り組んでいます。

４月 14 日に，石巻市と関係機関が今年度初めての打合せを行い，昨年度の捕獲実績や経費等について情報交換を行いました。新たな狩猟免許者の育成によりニホンジカの捕獲数が向上したものの，ジビエ用に処理されたものは１割にも満たず，捕獲されたシカの処理方法が喫緊の課題となっています。

今年度は，減容化も試作しつつ，食肉利用の拡大に向けた課題を整理し，地域住民が主体となった共存できる適正な生息数に向け，引き続き話し合いを進めていきます。

②大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援

〇オリーブ巡回指導会
令和3年4月26日
石巻農業改良普及センター

石巻市では，平成 26 年以降オリーブの試験栽培が行われています。栽培面積は年々増加しており，令和３年４月時点で４ha ほどの面積があります。

オリーブ栽培の主体は，平成 29 年に設立された「石巻市北限のオリーブ研究会」で，生産者団体の他，石巻市，復興庁，宮城大学や県で構成されています。研究会では，行事の一環として，香川県から(株)アライオリーブ社長の荒井雅信氏を講師としてお迎えし，定期的に指導会を開催しています。

令和３年の第１回目となる指導会は，４月 20 日，21 日の２日間にわたり，石巻市内６か所の栽培試験地を巡回指導する形で開催され，梢枯病（しょうこびょう）などの病害に罹病した小枝の剪除や，間もなく発生が始まるハマキムシ類の防除についてお話しをいただきました。

石巻産のオリーブは植栽後の年数が浅いこともあり，まだ本格的な収量には達していないため，現在のところ市販はされていませんが，収量は年々増加しており，搾油したオイルも上々の品質となっています。

近い将来，石巻産のオリーブオイルが店頭に並びますので，お見かけの際は是非お買い求めいただき，御賞味くださいますようお願いします。

普及指導員が県内9か所の普及センターで，農業者を支援しています。

＜大河原＞
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

＜亘　理＞
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

＜仙　台＞
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

＜大　崎＞
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

＜美　里＞
〒987-0005
美里町北浦字笹舘5
TEL:0229-32-3115

＜栗　原＞
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

＜登　米＞
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

＜石　巻＞
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

＜気仙沼＞
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068

＊各農業改良普及センターには，「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら，上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場　NEWS LETTER　No.171
発行日:2021 年 5 月 25 日
発　行:宮城県農政部農業振興課
編　集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837　FAX:022-211-2839
E-mail ： gbfs@pref.miyagi.lg.jp